

| 製品レベル | カテゴリ | 現象/内容 | 変更内容 | 影響範囲 | 従来製品での回避/対応方法 | 備考 |
|-----------|-------------|--|--|---------------------------------------|---|---|
| Ver.11.5a | システムリカバリ | 機能追加 | 2016年度上期 ESPRIMO、LIFEBOOK、CELSIUS、ARROWS Tab の新機種に対応しました。 | 【版数】 Ver.11.5 【グレード】 上、特上 | — | 対応した機種については、瞬快のホームページを参照ください。 |
| | 瞬間復元ドライバ | 制限解除 | Windows 10 のコンパクトOS環境での瞬間復元に対応しました。 | 【版数】 Ver.11.5 【グレード】 共通 | — | |
| | 瞬間復元ドライバ | 瞬快クライアントがファイル・フォルダ単位の修復モード中に、修復対象にしたFAT32のドライブ上でVisualStudio2010のVBのプロジェクトを作成し保存する、またはビルドすると0x23のSTOPエラーが発生する。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5 【グレード】 共通 | NTFSのドライブにプロジェクトの作成を行ってください。 | |
| | 瞬間復元ドライバ | 瞬快クライアントがインストールした32ビットのUEFIのPCでは、修復モードの状態にすると、OS起動直前の1～2秒の間、画面左上に瞬間復元ドライバのデバッグ用文字列が表示される。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬間復元ドライバ | 瞬快クライアントがファイル・フォルダ単位の修復モード中にPhotoshopで画像ファイルの保存を行うと、数回に1回程度の確率で、保存したファイルのアイコンが表示されないことがある。この場合も、保存処理自体は行われており、F5キーを押すことでアイコンが表示されるようになる。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5 【グレード】 共通 | なし | |
| | ウイルス対策ソフト連携 | エフセキュアのパターンファイルの情報取得処理がタイムアウトで失敗する場合がある。 | タイムアウト時間を1秒から3秒に延長しました。 | 【版数】 Ver.11.5 【グレード】 共通 | なし | |
| | スケジューラ | スケジューラ機能によるログオン処理のスケジュールでは、ドメインへのログオンが指定できない。 | ドメインへログオンできるようにプログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5 【グレード】 共通 | なし | |
| | リモート画面操作機能 | Windows Vista にて複数PC操作のレイアウト編集を実施した際、各クライアントをレイアウト編集画面で選択することはできるが、ドラッグアンドドロップで位置を変更することができない場合がある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5 【グレード】 共通 | なし | |
| | 利用情報収集機能 | 利用情報収集機能の稼働チャートで、電源ON/ログオン/ログオフ/電源OFFを繰り返しているにもかかわらずPCがログオンし続けている状態で見えてしまう場合がある。 | 強制電源断など、PCの電源OFFが正しく検知できなかった場合は、その際の電源ON～電源OFFまでを稼働チャートに表示させないように改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5 【グレード】 共通 | なし | |
| | サーバ機能 | 瞬快サーバを版数アップした後にエクスポートしたデータを、新規インストールした瞬快サーバへインポートさせた場合に、瞬快サーバの版数は同じであってもデータが正しくインポートできない場合がある。 | 瞬快サーバを版数アップした場合と新規インストールした場合で、データの構造が同じになるようにプログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5 【グレード】 共通 | なし | |
| | システムリカバリ | クライアントPCのリモート登録(手動登録)では、コンピュータ名の先頭文字に数字が使えない。 | コンピュータ名の先頭文字に数字を使えるようにしました。 | 【版数】 Ver.11.5 【グレード】 上、特上 | なし | |
| | システムリカバリ | システムリカバリの実行結果ログの[CSV出力]を行うと、以下のエラーが発生する場合がある。 SRO00040 (X) ファイルへの書き込みができませんでした。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5 【グレード】 上、特上 | なし | |
| | ツール | 瞬快サーバのデータを、上位バージョンに移行させるための BzSvMigration.exe が、瞬快V11.5で動作しない。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5 【グレード】 上、特上 | なし | |
| Ver.11.5b | 動作環境 | サポートOS追加 | 次のOSをサポート対象として追加しました。 Windows 10 Enterprise 2016 LTSC Windows Server 2016 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 共通 | — | |
| | システムリカバリ | 機能追加 | 2016年度下期 ESPRIMO、LIFEBOOK、CELSIUS、ARROWS Tab の新機種に対応しました。 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 上、特上 | — | 対応した機種については、瞬快のホームページを参照ください。 |
| | クライアント | 機能追加 | 瞬間復元の簡単設定にて、ジャストシステムの ATOK 2016 に対応しました。 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 共通 | — | |
| | 瞬間復元ドライバ | 瞬快クライアントをインストールするPCにおいて、デバイスの暗号化またはBitLockerが有効になっていることを見落として修復モードへ変更してしまうと、OS環境に異常が生じる。 | デバイスの暗号化またはBitLockerが有効になっている状態では、修復モードへの変更指示を受け付けないようにしました。 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 共通 | デバイスの暗号化またはBitLockerが有効になっている状態で修復モードへの変更は行わないでください。 | |
| | 瞬間復元ドライバ | 瞬快クライアントがファイル・フォルダ単位の修復モードでインストールされたPCでは、Windows8.1のフォトアプリにおいて、カメラで写真を撮影したり、外部媒体から画像のインポートを実行したりしても、その画像が表示されない。また、ストアアプリの YouCam Mobile for FUJITSU でも、撮影した写真が表示されない。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 共通 | なし | 修復モードに切り替えを行う前に、ユーザープロファイルが存在する場合は画像が表示されませんが、修復モードに切り替えた後に、ユーザープロファイルが作成される場合は、画像は表示されません。 |
| | 瞬間復元ドライバ | 修復モードの状態が6ヶ月以上経過すると、通知領域のアイコンが正常に表示されなくなったりクリックしても反応しない状況となる。 | 暫定対処として、修復モードへ切り替える際に、レジストリにキャッシュされている通知領域アイコンの情報をクリアするようにしました。 本対応により通知領域アイコンをカスタマイズしても修復モードに切り替えると初期値に戻ります。 通知領域アイコンをカスタマイズしたい場合はサポートセンターまでお問い合わせください。 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 共通 | 本製品DVDの以下のフォルダ内にあるスクリプト使ってキャッシュをクリアしてください。 Tool\Scripts\DeleteIconStreams 使用方法はフォルダ内のReadme.txtを参照ください。 | |
| | 瞬間復元ドライバ | Symantec Endpoint Protection(SEP)がインストールされた次の環境の場合、瞬快クライアントをファイル・フォルダ単位の修復モードにすると、SEPのサービスが起動しない。 ・KB3172985 または KB3163018 の更新が適用されている 32bit の Windows10 ・KB3170377 または KB3172614 の更新が適用されている 32bit の Windows8.1 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 共通 | なし | |

| 製品レベル | カテゴリ | 現象/内容 | 変更内容 | 影響範囲 | 従来製品での回避/対応方法 | 備考 |
|-----------|----------------------|---|--|---------------------------------------|---|---|
| | 瞬間復元ドライバ | 修復モード中にI/Oエラーを検知すると瞬間復元ドライバ(skfil.sys)はエラーログをディスクのLBA33に書き込む。 MBRディスクのLBA33は未使用領域であるが、GPTディスクのLBA33はパーティションテーブルとして使用されており、パーティション125～128の情報が書き込まれる。 LBA33にエラーログが書き込まれると、次回起動時よりパーティションテーブル異常と判定し、ディスク異常と通知される場合がある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 共通 | | 修復モードへの切り替え時にはディスク先頭領域をバックアップしており、修復無効モードへの切り替え時にはこれをリストアしますので、通常であればLBA33のエラーログは残りません。 |
| | システムリカバリクライアントインストーラ | システムリカバリクライアントの、新規インストールや版数アップの処理が失敗する場合がある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 上、特上 | なし | |
| | クライアント | 有線LANと無線LANの両方を搭載したPCに、瞬快クライアント機能をインストールした場合、有線LANを無効にしなければ無線LANの情報が瞬快サーバに通知されない。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | クライアント | スケジューラ機能を使って、クライアントPCへ指示を出しても、指示通りに動作しない場合がある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | クライアント | 64bit の Windows7 に瞬快クライアントをサイレントインストールする際、SHA-2証明書に対応している更新プログラムが適用されているにもかかわらず、インストールが中断されてしまう。 | サイレントインストールを行う場合は、SHA-2証明書に対応した環境かどうかを判定するための更新プログラム(KB3033929)の適用確認を行わないようにしました。 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 共通 | なし | Windows7 x64に瞬快クライアントをインストールする場合、2015年4月以降の更新プログラムを必ず適用するようにしてください。 |
| | クライアントインストーラ | 1台のPCへ、瞬快コンソール、瞬快クライアントの順にインストールを行うと、リモート画面操作機能の画面転送を受信できない。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 共通 | 瞬快クライアント、瞬快コンソールの順にインストールを行ってください。 | |
| | クライアントインストーラ | システムリカバリの[ディスクイメージ配信]もしくは[Windows環境の設定]の処理において、Windows 8.1に対して瞬快クライアントのサイレントインストールを行うと失敗する。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 上、特上 | なし | Windows 8.1以外のOSでは発生しません。 |
| | システムリカバリ | システムリカバリコンソール起動時に、次のエラーが発生する場合がある。 ・SRO00095 設定ファイルの読み込みに失敗しました。環境をご確認ください。 ・SRO05123 環境設定ファイルの取得に失敗しました。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 上、特上 | なし | |
| | システムリカバリ | システムリカバリサーバを再起動せずに長期間利用し続けると、システムリカバリサーバのデータベースが肥大化する。 これにより、イメージ配信等のサービス実行時に、「リクエストの開始命令の発行に失敗したか、サービスのパラメータエラーが発生しました。」というエラーが発生し、サービスが実行できなくなる場合がある。 | システムリカバリサーバのデータベースサイズが閾値を超えた場合に、通知メッセージを表示させるようにプログラムを改修しました。 システムリカバリコンソールを起動したときに、次のメッセージが表示された場合には、メッセージに従いサービスを再起動させて下さい。 「システムリカバリサーバのデータベースが肥大化している恐れがあります。システムリカバリコンソールを終了させてから、システムリカバリサーバのDeployment Serviceのサービスを再起動してください。」 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 上、特上 | 定期的にシステムリカバリサーバのDeployment Serviceのサービスを再起動させてください。 | |
| | システムリカバリ | システムリカバリのサービスの設定において、「アクティベーションが失敗した場合に処理を停止する」のチェックを外している場合、サービス実行時にアクティベーションできない場合でも処理が継続されないといけないが、アクティベーションできない場合には処理が継続せずにエラー終了してしまう。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 上、特上 | なし | |
| | システムリカバリ | システムリカバリコンソールを起動すると、次のエラーが発生する場合がある。 「C:\ProgramData\Syunkai Product\Console¥Manage¥Sro¥client.csv へのアクセスは拒否されました。」 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 上、特上 | 現象が発生した場合は、以下のファイルを削除して下さい。 C:\ProgramData\Syunkai Product\Console¥Manage¥Sro¥client.csv | |
| | システムリカバリ | システムリカバリサーバと瞬快コンソールの版数が一致しない場合、システムリカバリのコンソール表示時 次のエラーが発生する。 「指定されたパラメータは正しくありません。引数が範囲外の値です。」 または、 「システムリカバリサーバとの通信が切断されました。システムリカバリ管理機能を終了し、再度起動してください。」 | 瞬快コンソールを起動したときに、版数チェックを行う処理を追加しました。 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 上、特上 | 瞬快サーバ、瞬快コンソール、システムリカバリサーバの版数は必ず一致させてください。 | |
| | WindowsUpdate連携 | WindowsUpdate連携の処理において、更新プログラムの検索や適用に長い時間を要する場合があります。5時間のタイムアウト時間では処理が終了しない事例が増えている。 | WindowsUpdate連携のスケジュール作成時にタイムアウト時間を延長できるようにしました。 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 共通 | WindowsUpdate連携処理が5時間以内で終了するよう、クライアント環境もしくはWSUSにて調整してください。 | |
| | スケジューラ | 瞬快のスケジューラ機能で、同時に多台数(100台以上)を同時実行した場合、Windowsが過負荷状態になり、スケジューラが正常動作しない場合がある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 共通 | 同時に実行する台数を少なくしてください。 | |
| | リモート画面操作機能 | スクリーンセーバーが動作している Windows 10 のクライアントPCに対して画面転送を行っても、スクリーンセーバーが解除されない。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬快コンソール | 瞬快コンソールの機器管理の一覧にて最新情報を表示した場合、クライアントPCが電源オフであるにもかかわらず、電源オンと表示されてしまう場合がある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5a以前 【グレード】 共通 | なし | |
| Ver.11.5c | 動作環境 | サポートOS追加 | Creators Update 適用済みの次のOSをサポート対象として追加しました。 ・Windows 10 Pro ・Windows 10 Education ・Windows 10 Enterprise | 【版数】 Ver.11.5b以前 【グレード】 共通 | — | |

| 製品レベル | カテゴリ | 現象/内容 | 変更内容 | 影響範囲 | 従来製品での回避/対応方法 | 備考 |
|------------|------------|--|---|---------------------------------------|--|--|
| | 瞬間復元ドライバ | Office 2013以降のボリュームライセンス製品を除く全てのMicrosoft Office製品では、Officeの自動更新が、Windowsのタスクに登録された「Office Automatic Updates」により自動的に行われるようになっているが、ファイル・フォルダ単位の修復モード中に、このタスクが動作してOfficeに更新がかかると、更新内容によってはOfficeファイルの管理情報に異常が生じ、Officeファイルが開けなくなる。 | クライアント機能を新規インストール時に、タスクスケジューラに「Office Automatic Updates」が登録されていればタスクを無効化させるように修正しました。 | 【版数】 Ver.11.5b以前 【グレード】 共通 | タスクスケジューラから「Office Automatic Updates」を無効にして下さい。 | |
| | 瞬間復元ドライバ | UEFI設定時のブートエントリとしての Windows Boot Manager(WBM) が複数登録されたような異常な環境において、修復モードへの切り替えを行うとPCが正常起動しなくなる場合がある。 | 異常なWBMをスキップするようにし、PCが正常起動されるように修正しました。 | 【版数】 Ver.11.5b以前 【グレード】 共通 | 複数のWBMが登録されている場合は、bcdedit.exe /delete コマンドでWBMをすべて削除した後、次のコマンドを実行し、正常なWBMを登録してください。 bcdboot.exe c:\Windows /L ja-jp | |
| | 瞬間復元ドライバ | ファイルフォルダ単位の修復モードにて運用を続けていると、「ファイルシステムの異常を検知しました」のエラーが表示される場合がある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5b以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬間復元ドライバ | 動作モードを修復モードへ変更した際に、次のような状態になりOSが起動しなくなる機種がある。 【レガシーブートの場合】 OS起動中の黒画面時、画面左上にてカーソルが点滅する状態になる。 【UEFIブートの場合】 OS起動中の黒画面時、画面中央に「Cannot load PreparationOfBootOS」のメッセージが表示される。 | 【レガシーブートの場合】 ファームウェアの問題を回避し、起動処理を止めないようにプログラムを改修しました。 【UEFIブートの場合】 ファームウェアの問題を回避する設定を可能としました。設定方法については、サポートセンターまでお問い合わせください。 | 【版数】 Ver.11.5b以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | クライアント | 瞬快クライアントインストール後、修復無効モードにてプリフェッチ・スーパーフェッチの設定を変更しても、修復モードにすると瞬快標準設定に戻されてしまう。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5b以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬快コンソール | 瞬快コンソールにおける機器一覧の表示において、IPアドレスが127.0.0.1となるPCがある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5b以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | リモート画面操作機能 | 画面補正機能が動作しないアプリケーションが存在する。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5b以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | システムリカバリ | MAKを使用した Windows 10 のライセンス認証において、成功しているにもかかわらず失敗と判断する場合がある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5b以前 【グレード】 上、特上 | なし | |
| Ver.11.5c+ | 瞬間復元ドライバ | レガシーブートのOS環境にVer.11.5cをインストールして修復モードにする場合、機種によっては、次の様な画面表示にて停止し、OS起動しなくなる。 ・黒画面にてカーソルが点滅 ・機器メーカーのロゴ画面 ・「Windows を起動しています」の画面 | プログラムを改修しました | 【版数】 Ver.11.5cのみ 【グレード】 共通 | なし | Ver.11.5cで既に修復モードで正常動作している場合は、Ver.11.5c+に版数アップする必要はありません。 |
| Ver.11.5d | 動作環境 | サポートOS追加 | Fall Creators Update 適用済みの次のOSをサポート対象として追加しました。 ・Windows 10 Pro ・Windows 10 Education ・Windows 10 Enterprise | 【版数】 Ver.11.5c+以前 【グレード】 共通 | — | |
| | 瞬間復元ドライバ | ファイルフォルダ単位の修復モードで、Windows10に搭載されている「メール」のアプリを利用すると、次のような異常な動作をする場合がある。 ・受信したメールを開くと本文が表示されずに「ダウンロードを完了できませんでした。」のエラーが発生する。 ・送信したメールが、送信相手に本文無しで届く。 ・送信したメールが「送信済みメール」フォルダに表示されない。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5c+以前 【グレード】 共通 | なし | Ver.11.5c+以前を利用して既に問題が発生している場合は、Ver.11.5dに版数アップしただけでは問題は改善しません。その場合は、版数アップ後に修復無効モードでメールアプリのアカウントを削除し、再セットアップをしてください。 |
| | 瞬間復元ドライバ | ファイルフォルダ単位の修復モードにすると Adobe Creative Cloud が起動できない。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5c+以前 【グレード】 共通 | 次のフォルダを修復対象外に設定してください。 【32ビットOS】 C:\ProgramData\Adobe\SLStore\ C:\Program Files\Common Files\Adobe\SLCache\ C:\Program Files\Common Files\Adobe\OOBE\ C:\Program Files\Adobe\SLStore\ C:\Program Files (x86)\Common Files\Adobe\SLCache\ C:\Program Files (x86)\Common Files\Adobe\OOBE\ | |
| | サーバ機能 | 瞬快サーバが利用しているMicrosoft SQL Server 2008 R2 Express EditionのMicrosoft社のサポート期限が2019年7月で切れる。 | 瞬快サーバを新規インストールした場合は、Microsoft SQL Server 2014 Expressがインストールされます。 従来の版数から瞬快サーバを版数アップした場合は、引き続きMicrosoft SQL Server 2008 R2 Express Editionが利用されます。 | 【版数】 Ver.11.5c+以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | インストーラ共通 | 1台のPCに、瞬快クライアント、瞬快コンソールの順でインストールを行い、瞬快クライアントだけをアンインストールすると、リモート画面操作の画面転送機能が動作しない。 また、1台のPCに、瞬快コンソール、瞬快クライアントの順でインストールを行い、瞬快コンソールだけをアンインストールすると、リモート画面操作のクライアント機能が動作しない。(他のPCからのモニタリングや遠隔操作などができない) | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5c+以前 【グレード】 共通 | 瞬快クライアントまたは瞬快コンソールの機能を再インストールしてください。 | |

| 製品レベル | カテゴリ | 現象/内容 | 変更内容 | 影響範囲 | 従来製品での回避/対応方法 | 備考 |
|-------------|-----------------|--|---|---|---|--|
| | クライアント | sha256のデジタル証明書に対応した更新プログラムがWindows 7 x64に適用されているかをチェックする処理に問題があり、正しく判断できていなかった。このため、sha256のデジタル証明書に未対応のWindows 7 x64に瞬快クライアントをインストールできてしまい、OS起動ができなくなる場合がある。 | sha256のデジタル証明書に対応した更新プログラムがインストールされているかの判断ロジックを改修しました。sha256のデジタル証明書に未対応の場合は、瞬快クライアントのインストールを中断します。 | 【版数】 Ver.11.5c+以前 【グレード】 共通 | 2015年03月に公開された、KB3033929の更新プログラムを適用する、またはKB3033929の更新プログラムが含まれる累積的な更新プログラムを適用してください。 | |
| | クライアント | Ver.11.5bでは、修復モードの状態が6ヶ月以上経過すると通知領域アイコンに異常が生じるといったOS仕様に対する暫定対策を施したが、これにより通知領域アイコンのカスタマイズができないという制限事項が生じている。また、修復モードへの変更時にログオン中のユーザーでは当暫定対策が無効となる。 | レジストリにキャッシュされている通知領域アイコン情報をクリアするという暫定対策を中止し、代わりにキャッシュの有効期限を120ヶ月に変更することで、制限解除と問題解消を図りました。 | 【版数】 Ver.11.5c+以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | リモート画面操作機能 | リモート画面操作機能の複数PC操作のコンソールを高さ115ドット以下のサイズにした状態で終了させると、次回複数PC操作起動時にモニタリングができない。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5c+以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | リモート画面操作機能 | スタートメニューから複数PC操作を起動した場合、ポリシー設定を「報告IPアドレスを利用して接続する」設定にしているにも関わらず、「ネットワーク設定を利用して接続する」設定の動きをする場合がある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5c+以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬快コンソール | 瞬快コンソールの設定で、「報告IPアドレスを使用する」に設定にしているにもかかわらず、クライアントPCからの通知が一定期間無いと報告IPが使用されず、リモート画面操作機能がクライアントPCに接続できない場合がある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5c+以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | 共通機能 | メール送信機能にて smtp.gmail.com を指定できるようにしました。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5c+以前 【グレード】 共通 | なし | |
| Ver.11.5d+ | リモート画面操作機能 | キーボード・マウスロック処理において、特殊キー操作([Ctrl]+[Alt]+[Del]および[Win]+[L])のロックができない。 OSのシステムイベントに dckfltr.sys のエラーが記録される。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5dのみ 【グレード】 共通 | なし | 64bit環境のみが対象です。 |
| Ver.11.5d++ | 瞬間復元ドライバ | Surface Pro のプリインストール環境にて修復モードにしようとする、ディスクを暗号化していないにもかかわらず、暗号化を解除するよう指示され、修復モードに変更できない。 | ファイルレコードサイズを4KBにしてフォーマットされたパーティションに対応できておらず、状況を誤認識していました。当該フォーマット形式に対応しました。 | 【版数】 Ver.11.5d+以前 【グレード】 共通 | なし | |
| Ver.11.5e | 動作環境 | サポートOS追加 | Windows 10 April 2018 Update に対応しました。 | 【版数】 Ver.11.5d++以前 【グレード】 共通 | — | |
| | 瞬間復元ドライバ | UEFI設定のPCのクローニングにおいて、クローニング先のPCに既に瞬快クライアントが修復モードに入っていた場合、ディスク全てのクローニングをせずにパーティションだけをクローニングすると、MBR領域に瞬快の情報が残っているため、修復モードに変更できない。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5d++以前 【グレード】 共通 | 事前に修復無効モードに切り替えてから、ディスクイメージを戻してください。 | |
| | 瞬間復元ドライバ | ファイル・フォルダ単位の修復モード時、オンラインストレージサービス DropBox のデスクトップアプリにて新規フォルダを登録すると同期エラーが発生する。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5d++以前 【グレード】 共通 | なし | 本対応後も、デスクトップアプリにてDropBoxフォルダを開いた状態で、WebブラウザにてDropBoxにログインしてファイル更新を行った場合、DropBoxフォルダの情報は最新状態に更新されません。この場合、DropBoxフォルダを閉じて開きなおすと、最新状態にて表示されます。 |
| | WindowsUpdate連携 | WindowsUpdate連携機能にてUpdateサイトにWSUSを指定せず、マイクロソフト社を指定した場合、Office等のオプションパッチが適用されない場合がある。 | WindowsUpdate連携機能の開始時に、Microsoftアップデートを必ず有効化（「Windowsの更新時に他のMicrosoft製品の更新プログラムも入手します。」の有効化と同意）して、Office等の更新プログラムが適用されるようにしました。 | 【版数】 Ver.11.5d++以前 【グレード】 共通 | 瞬快クライアントをインストールする前に、Windows Updateの設定にある「Windowsの更新時に他のMicrosoft製品の更新プログラムも入手します。」を有効化してください。 | |
| | サーバ機能 | Windowsのグループポリシー設定における「パスワードの長さ」を12文字以上に設定している場合、瞬快サーバ機能のインストールに失敗する。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5d++以前 【グレード】 共通 | Windowsのグループポリシー設定における「パスワードの長さ」を11文字以下に設定してください。 | |
| | システムリカバリ | システムリカバリコンソール起動時にアプリケーションエラーが発生する場合がある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5d++以前 【グレード】 上、特上 | なし | |
| | リモート画面操作機能 | 単一PC操作の処理中にネットワークが切断された場合、自動再接続されないため、手動での再接続操作が必要となる。 | 単一PC操作に、自動再接続機能を搭載しました。 | 【版数】 Ver.11.5d++以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | リモート画面操作機能 | ウイルスバスターコーポレートエディションのファイアウォール機能には問題があり、これが有効になっている場合は初回のUDP通信がブロックされるため、リモート画面操作でのクライアント接続に失敗する。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5d++以前 【グレード】 共通 | ウイルスバスターコーポレートエディションのファイアウォール機能を無効にしてください。 | |
| | 利用情報収集機能 | PCが正常にシャットダウンされなかった場合、利用情報収集機能にて収集される稼働時間が実際の稼働時間と異なる。 | 稼働状況を1分間隔で監視し、強制シャットダウンされた場合でも、稼働時間の誤差が1分未満になるようにしました。 | 【版数】 Ver.11.5d++以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | 利用情報収集機能 | 選択したグループに数百台のクライアントPCが含まれている状態にて、「ソフト確認」ボタンを押してソフトウェア情報を収集すると、瞬快コンソールのアプリケーションエラーが発生する。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5d++以前 【グレード】 共通 | 収集対象となるクライアントPCの台数が少なくなるようにグルーピングしてください。 | |
| Ver.11.5f | 動作環境 | サポートOS追加 | Windows 10 October 2018 Update に対応しました。 | 【版数】 Ver.11.5e以前 【グレード】 共通 | — | サポートOSにはWindows 10 Enterprise LTSC 2019 も含まれます。 |

| 製品レベル | カテゴリ | 現象/内容 | 変更内容 | 影響範囲 | 従来製品での回避/対応方法 | 備考 |
|-----------|-----------------|---|--|---------------------------------------|---|--------------------------------------|
| | 瞬快コンソール | マルチブート環境において、瞬快コンソールから「電源ON(OS指定)」を実行する際、1番目のOSを指定するとエラーが発生する。 また、2番目以降のOSを指定すると、1つ前のOSが起動する。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5eのみ 【グレード】 上、特上 | なし | |
| | 瞬快コンソール | 瞬快コンソールの機器一覧にて、「前回起動日時」および「前回終了日時」の列が空欄で表示される。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5e以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | リモート画面操作機能 | クライアントにメインモニタより解像度の高いサブモニタを接続し、サブモニタをメインモニタより右もしくは下に配置すると、クライアントにブラックアウトの指示を出した場合にブラックアウトされない領域が発生する。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5e以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | リモート画面操作機能 | リモート画面操作機能のコンソールにてレイアウト表示としている場合において、表示サイズを100%以外に設定すると、表示枠とクライアントPC側ディスプレイのアスペクト比が合わず、表示枠の上下もしくは左右に余白が表示されてしまう。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5e以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬間復元ドライバ | ファイルフォルダ単位の修復モード時、9文字以上のアカウント名にてログオンした場合に次のような事象が発生する。 ・Office365 を起動できない。 ・ストアアプリ版の Power2Go (CyberLink社製) を起動できない。 ・Firefox等のブラウザより Adobe Acrobat ReaderDC を使ってPDFファイルを開けない。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5e以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | システムリカバリ | UEFI環境におけるディスクイメージの配信において、配信先の瞬快クライアントの動作モードが修復モードもしくは更新モードである場合、パーティション構成の異なるディスクのイメージを配信すると、瞬快クライアントの動作モードを修復モードもしくは更新モードに変更したタイミングにて、パーティション構成が配信前の状態に戻ってしまう。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5e以前 【グレード】 上、特上 | ディスクイメージ配信前に、配信先の瞬快クライアントの動作モードを修復無効モードに切り替えてください。 | |
| | システムリカバリ | 「端末設置後の後処理用」サービスの実行に際し、クライアントPCのデスクトップに作成された「瞬快はじめに実行してください」のショートカットを実行した時、本来であれば自動的に削除される当該ショートカットが削除されずに残る。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5e以前 【グレード】 上、特上 | 処理終了後、当該ショートカットを削除してください。 | Windows 10のみで発生します。 |
| | スケジューラ | 実行種別が「即時実行」または「1回のみ」のスケジューラが開始された場合、処理が成功しているにもかかわらず実行結果が「タイムアウト」となる。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5e以前 【グレード】 共通 | スケジューラの画面にて、スケジューラ開始から10分以内に F5 キーを押して情報を最新化してください。 | |
| | WindowsUpdate連携 | WindowsUpdate連携の実施において、処理の途中でキャンセル指示を出していないにもかかわらず、キャンセルされてしまう場合がある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5e以前 【グレード】 共通 | なし | |
| Ver.11.5g | 動作環境 | サポートOS追加 | Windows 10 May 2019 Update に対応しました。 | 【版数】 Ver.11.5f以前 【グレード】 共通 | — | |
| | 動作環境 | サポートOS追加 | サーバ機能、コンソール機能が、Windows Server 2019 に対応しました。 | 【版数】 Ver.11.5f以前 【グレード】 共通 | — | |
| | 瞬快コンソール | 機器一覧の1列目に表示されているOS状態アイコンの色表示において、クライアントPCを電源オフにしても、OS起動済状態を表す「青」から電源OFF/スリープ状態を表す「黒」に変わらない。 | プログラムを修正しました。 | 【版数】 Ver.11.5f 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬間復元ドライバ | ファイルフォルダ単位の修復モードでは、Microsoft VisualStudio にて作成したソリューション名に全角アルファベット大文字が含まれる場合、ソリューションのビルドを行った際にソースが見つからない旨のエラーとなる。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5f以前 【グレード】 共通 | ソリューション名に含めるアルファベットは半角英文字を使ってください。 | |
| | 瞬間復元ドライバ | ラネクシー社製 MylogStar 3 がインストールされた環境にてファイルフォルダ単位の修復モードにすると、MylogStar 3 が正常動作しない。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5f以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬間復元ドライバ | ファイルフォルダ単位の修復モードにて、Favoritesフォルダにショートカットをコピーした後、Internet Explorerのお気に入りメニューを開くと、メニュー内にお気に入りのショートカットが表示されない場合がある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5f以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬間復元ドライバ | MBRにRel.8.0以前の瞬快の情報が残っている環境において、瞬快Ver.11.5fクライアントがインストールされた状態にすると、修復モードへの変更時にエラーが発生して修復モードに変更できない。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5fのみ 【グレード】 共通 | 瞬快クライアントを一旦アンインストールした後、製品DVDのTOOLフォルダに格納している chkmb.exe コマンドに /clear のオプションを付けて実行してください。 | |
| | 瞬間復元ドライバ | ファイルフォルダ単位の修復モードにて、既存のフォルダと同じ名前のファイル(同ドライブ内に既存もしくは新規作成したもの)を、当該フォルダの場所に移動しようとし、その際の上書き指示を付加していると、当該フォルダがゼロバイトのファイルとなる場合がある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5f以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | システムリカバリ | 瞬快サーバに2048台を超えるクライアントPCを登録した場合、システムリカバリコンソールを起動すると、起動時に「異常終了しました。」のエラーメッセージが表示され、クライアントPCが表示されない。 | 台数制限を設け、2048台を超えるクライアントPCが登録される場合にはシステムリカバリコンソールを起動できないようにしました。 | 【版数】 Ver.11.5f以前 【グレード】 上、特上 | なし | 1サーバに登録するクライアントPCの台数は2048台以下とってください。 |
| | クライアント | 最近のHP、TOSHIBA、EPSON、VAIO、INTEL、Microsoft 各社のUEFI機においては、修復モードにする際のブートエントリの登録が正常に動作しないことがあり、これを回避するためにはNotUseUefiBootMenu のレジストリを事前にセットの上、機能制限方式を選択する必要がある。 | NotUseUefiBootMenu のレジストリをセットしなくても機能制限方式を選択するだけで、エラー終了とならずに修復モードに変更できるようにしました。 | 【版数】 Ver.11.5f以前 【グレード】 共通 | なし | 問題の詳細につきましては、瞬快のWebサイトを確認願います。 |

| 製品レベル | カテゴリ | 現象/内容 | 変更内容 | 影響範囲 | 従来製品での回避/対応方法 | 備考 |
|-----------|----------------------|---|--|---------------------------------------|---|--------------------------------------|
| | クライアント | 瞬快クライアントのパスワードを変更する際、変更前と変更後のパスワードの違いが、アルファベットの大小文字と小文字のみである場合、変更内容が反映されない。 【例】pass→PASS | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5f以前 【グレード】 共通 | 先に、大文字と小文字以外が異なるパスワードに変更してから、目的のパスワードに変更してください。 【例】pass→pass1→PASS | |
| | クライアント | クライアント機能の環境設定画面にある「修復対象・対象外設定」のインポート機能において、修復対象が入れ子になった設定を正しくインポートできない。 【例】 次の設定をインポートすると、PATH3が反映されない。 [PATH] PATH1=1C:¥ PATH2=0C:¥DATA¥ PATH3=1C:¥DATA¥SUB¥ | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5f以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | インストーラ共通 | Windows 10 Pro Education バージョン1809 (RS5) へVer.11.5fの各機能をインストールする際に「このOSは未サポートです。処理を続行しますか?」という警告メッセージが表示される。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5fのみ 【グレード】 共通 | なし | インストール時に警告は出ますが、インストール後の動作に問題はありません。 |
| Ver.11.5h | 瞬間復元ドライバ | 瞬間復元の方式に、機能制限方式を選択した場合でも、各PCのUEFIの仕様の違いより、瞬間復元機能が正常に動作しない場合がある。 | 瞬間復元の方式に、機能制限方式を選択した場合、瞬間復元用のブートローダーを登録しない動作に変更しました。これにより、各PCのUEFIの仕様の違いによる影響を受けなくなります。 | 【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通 | Ver.11.5c以降であれば次のレジストリ設定を行うことで回避可能です。 【64bitOSの場合】 [HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Fujitsu Shikoku Systems Limited\Syunkai Product\Agent] "NotUseUefiBootMenu"=dword:00000001 【32bitOSの場合】 [HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Fujitsu Shikoku Systems Limited\Syunkai Product\Agent] "NotUseUefiBootMenu"=dword:00000001 | |
| | クライアント | 瞬快クライアントの動作モードを修復モードにすると、OS起動時にSDBUS.SYSの異常によるSTOPエラーが発生する場合があります。 | 瞬間復元ドライバインストール時および修復モードへの変更時に次のレジストリ設定を行うことで異常の発生を回避するようにしました。 [HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\sdstor\Parameters] "PackedCommandEnable"=dword:00000000 | 【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通 | 問題が発生する場合は、左記のレジストリを手動で設定してください。 | |
| | クライアント | デバイスの暗号化を有効にできる機種の場合、Windows10の標準設定ではアイドル時に自動的に暗号化が開始される。 | 瞬間復元ドライバインストール時および修復モードへの変更時に、暗号化の自動開始を抑制するべく、OSの設定変更を行うようにしました。 | 【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | クライアント | 修復モードの状態にて Microsoft Office 2019 の自動アップデート用のタスクが無駄に動作する。 | 次の Microsoft Office 2019 のアップデート用のタスクを、瞬間復元ドライバインストール時に無効化するようにしました。 ¥Microsoft¥Office¥Office Automatic Updates 2.0 | 【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | クライアント | ファイルフォルダ単位の修復モードにて運用中、設定の変更を行っていないにもかかわらず、CDドライブが修復対象外の設定に変わってしまう場合がある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通 | なし | 稀な事象であり、瞬快のお客様からの発生報告は、9年間に3件です。 |
| | ウイルス対策ソフト連携 | WindowsDefenderに仕様変更があり、WindowsDefenderのエンジンの更新があった場合に、更新された内容が次の瞬間復元動作により元に戻ってしまう。 | WindowsDefenderと共存するための定義を変更しました。 | 【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | システムリカバリクライアントインストーラ | デバイスの暗号化を有効にできる機種の場合、Windows10の標準設定ではアイドル時に自動的に暗号化が開始される。 | システムリカバリクライアント機能をインストール時に次のレジストリ設定を行うことで自動開始を抑制するようにしました。 [HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\BitLocker] "PreventDeviceEncryption"=dword:00000001 | 【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 上、特上 | なし | |
| | WindowsUpdate連携 | WindowsUpdate連携の処理において、適用に1時間以上かかるような更新があった場合、クライアントPCが再起動を繰り返す状態になってしまう場合がある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | WindowsUpdate連携 | WindowsUpdate連携の処理途中で、意図しないPCの再起動が行われると、WindowsUpdate連携の処理が失敗してしまう。 | 意図しないPCの再起動が行われても処理を継続させるようにしました。 | 【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | リモート画面操作機能 | 複数PC操作のレイアウト表示画面にて、背景に画像を設定していた場合、レイアウト表示画面をマウスのホイールでスクロールさせると、背景の画像が崩れる。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5g以前 【グレード】 共通 | スクロールバーでスクロールを行ってください。 | |
| Ver.11.5i | Windows OS | サポートOS追加 | サポートOSとして「Windows 10 Pro for Workstations」を追加しました。 | 【版数】 Ver.11.5h以前 【グレード】 共通 | — | |
| | 瞬間復元ドライバ | 2020年上期モデルの富士通製PCにて、標準設定の「A方式」にて修復モードにしようとするとう失敗する。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5h以前 【グレード】 共通 | 復元方式を、「機能制限方式」にすることで回避可能です。 | |
| | 瞬間復元ドライバ | Windows 10 May 2020 Update (Version 2004)の環境において、メモリキャッシュ機能を有効にして修復モードにすると、システムイベントログに次のエラーが記録される。 ボリューム ボリューム (¥Device¥SKRamDisk) フル Chkdsk を実行するために、オフラインにする必要があります。コマンド ラインで "CHKDSK /F" をローカルに実行するか、PowerShell で "REPAIR-VOLUME (ドライブ:*)" をローカルまたはリモートで実行してください。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5h以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬間復元ドライバ | 修復モードではAutodesk社の2020年版ネットワークライセンス製品を起動できなくなる。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5h以前 【グレード】 共通 | なし | |

| 製品レベル | カテゴリ | 現象/内容 | 変更内容 | 影響範囲 | 従来製品での回避/対応方法 | 備考 |
|-----------|-----------------|--|---|---------------------------------------|-----------------------------------|--|
| | システムリカバリ | 機能変更 | ディスクイメージ取得の際の通信プロトコルをUDPからTCPに変更しました。 | 【版数】 Ver.11.5h以前 【グレード】 上、特上 | | |
| | 瞬快コンソール | 瞬快コンソールに登録されている機器の「OS情報」にて、無線LANのネットワーク設定を「ネットワーク情報を更新する」に設定しても無線LANの「DNS」情報が更新されない。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5h以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬快コンソール | 瞬快コンソールのスケジュール登録画面にて、アプリケーションエラーが発生する場合があります。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5h以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | WindowsUpdate連携 | WindowsUpdate連携において、クライアント側で動作するBzWuAgent.exeがアプリケーションエラーにて終了してしまい、WindowsUpdate連携のスケジュールが失敗で終わる場合があります。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5h以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | ウイルス対策ソフト連携 | エフセキュア13.11のパターン更新に失敗することがある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5h以前 【グレード】 共通 | なし | |
| Ver.11.5j | 瞬間復元ドライバ | ファイルフォルダ単位の修復モードにて、1つのフォルダ内に、同じ文字列から始まるファイル名のファイルが、大量に作成、削除を繰り返されると、作成、削除の回数に比例し処理速度が劣化する。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5i以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬間復元ドライバ | 次の3つの条件を全て満たす場合に、瞬間復元ドライバのローディングに遅延が生じることでOS環境に不整合が生じ、OSが起動しない場合がある。 ・ブートエントリが数百個以上存在している ・瞬快のマルチブート設定をしている ・パーティション単位の修復モード、もしくは、ファイルフォルダ単位の更新モードにしている | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5i以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬間復元ドライバ | Comet Lake に対応したプラットフォームであり、かつ、UEF環境の場合、次の何れかの復元設定を行うと、瞬間復元ドライバのローディングに遅延が生じることでOS環境に不整合が生じ、OSが起動しなくなるなどの問題が発生する。 ・ファイルフォルダ単位の更新モードにした ・パーティション単位にて毎回起動時修復以外の修復設定を行った ・パーティション単位にて更新モードにした ・パーティション単位にて修復ポイントの設定を行った | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5i以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬間復元ドライバ | 富士通製の2020年下期モデル以降のESPRIMOにてマルチブート環境を構築した場合に、瞬快でのマルチブートの切り替えができない。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5i以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬間復元ドライバ | ファイルフォルダ単位の修復モードで運用している場合に、skfsd.sysにて0x50のSTOPエラーが発生する場合があります。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5i以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬間復元ドライバ | ファイルフォルダの修復モードで運用中、修復対象領域にて新規作成もしくは更新したファイルに、読み取り属性を付け、他のドライブへ移動しようとする、処理に失敗しファイルが消失する。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5i以前 【グレード】 共通 | 移動せずにコピーし、コピー後にコピー元を削除してください。 | 更新ファイルの場合、更新前のファイルは残ります。 |
| | 瞬間復元ドライバ | ファイルフォルダ単位の修復モードにすると、フォルダが0バイトのファイルに見える事象が発生する場合があります。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5i以前 【グレード】 共通 | なし | Avid社の音楽ソフトウェアインストール環境にて発生することを確認しています。 |
| | 瞬間復元ドライバ | 次の3つの条件を全て満たす場合に、PCがフリーズする場合があります。 ・OSが Windows 10 である ・Windows Defender を使用している ・ファイルフォルダ単位の修復モードにしている | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5i以前 【グレード】 共通 | なし | |
| Ver.11.5k | 動作環境 | 機能変更 | 必要となる .NET Framework の条件を .NET Framework 4.5.2 に変更しました。 | 【版数】 Ver.11.5j以前 【グレード】 共通 | - | Windows10の環境において、.NET Framework の追加インストールは必要なくなりました。 |
| | 利用情報収集機能 | 機能追加 | 利用情報収集機能で収集されたデータをCSV形式でエクスポートするツール(UseInfoExport.exe)を作成しました。 | 【版数】 Ver.11.5j以前 【グレード】 共通 | - | |
| | リモート画面操作機能 | 機能改善 | 通信量を最適化するべく、モニタリングや遠隔操作を行う際の画像品質を細かく設定できるようにしました。 | 【版数】 Ver.11.5j以前 【グレード】 共通 | - | |
| | 瞬間復元ドライバ | 機能追加 | BitLockerドライブ暗号化やデバイスの暗号化により、ディスクが暗号化されたPCにて瞬間復元機能が動作するようにしました。 | 【版数】 Ver.11.5j以前 【グレード】 共通 | | |
| | 瞬快コンソール | 1台の瞬快サーバに対して、複数のシステムリカバリコンソールから同時に接続できてしまい、それぞれのコンソールにて情報更新することで管理情報に矛盾が発生することがある。 | システムリカバリコンソール起動中は瞬快コンソールを終了できないようにすることで、複数のシステムリカバリコンソールからの同時接続が発生しないようにしました。 | 【版数】 Ver.11.5j以前 【グレード】 上、特上 | 複数のPCに瞬快コンソールをインストールしないことで回避可能です。 | 1台の瞬快サーバに対して、複数の瞬快コンソールから同時に接続することはできません。 |
| | 瞬間復元ドライバ | 起動ディスクの先頭パーティションの開始オフセットが32,255Byteより小さいPCにて、動作モードを修復モードに切り替えようとする、モード切り替えが失敗し、場合によってはWindowsが起動できなくなることがある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5j以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬間復元ドライバ | HP社製PC等の復元方式をA方式にすると正常に瞬間復元機能が動作しないPCにおいて、A方式にしてドライブ異常を発生させ、この状態から版数アップを行った環境の場合、修復無効モードに変更すると十数秒で修復モードに戻ってしまう。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5j以前 【グレード】 共通 | 機能制限方式に切り替えてから版数アップを行ってください。 | |

| 製品レベル | カテゴリ | 現象/内容 | 変更内容 | 影響範囲 | 従来製品での回避/対応方法 | 備考 |
|-----------|-----------------|--|--|---|--|--|
| | 瞬間復元ドライバ | 次の3点の条件を全て満たす場合、3点目の変更指示後の2回目のOS起動タイミングより、黒画面で停止しOS起動しない状態となる。 ・レガシーBIOSもしくはBIOS互換の環境である。 ・瞬快のポリシーエディタにて「ディスク容量警告の閾値」を5%以下にしている。 ・更新モードもしくはパーティション単位の修復モードに変更した。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5j以前 【グレード】 共通 | 「ディスク容量警告の閾値」は6%以上にしてください。 当事象が発生した場合、MBRを初期化することで修復無効モードで起動させることが可能です。 | |
| | 瞬間復元ドライバ | 環境によっては、ファイルフォルダ単位の修復モードに切り替えると0x7f(スタックオーバーフロー)のSTOPエラーが発生する。 | スタックの消費量を削減しました。 | 【版数】 Ver.11.5j以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | リモート画面操作機能 | キーマウスロック機能にて、タッチパネルの操作はロックできない。 | タッチパネルの操作もロックできるようにプログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5j以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | リモート画面操作機能 | 複数PC操作機能のパネル表示にて、クライアントPC側のディスプレイのアスペクト比と、コンソール側の表示のアスペクト比が一致せず、表示領域が非効率になる。 | アスペクト比のデフォルト値を16:9にしました。 また、カスタムでアスペクト比を指定できるようにしました。 | 【版数】 Ver.11.5j以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | リモート画面操作機能 | リモート画面操作での「コマンド」実行機能では、管理者への昇格が必要なコマンドを実行できない。 | 「コマンド」実行機能にローカルシステム権限にて実行するオプションを追加しました。 | 【版数】 Ver.11.5j以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | リモート画面操作機能 | Version1803以降のWindows10のクライアントPCを遠隔操作する場合において、コンソールPCとクライアントPCにて、NumLock、CapsLockもしくはScrollLockの状態が一致しない場合、関連するキー入力がクライアント側へ正しく伝わらない。 | クライアント側のNumLock、CapsLockおよびScrollLockの状態をコンソール側と同じにするための機能を、遠隔操作時の「特殊キー」を送信するボタンに追加しました。 | 【版数】 Ver.11.5j以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | リモート画面操作機能 | ドリームクラフト社のSafetyAnchorと同居したクライアント環境では、Windowsからのサインアウトに時間がかかる、もしくはWindowsからサインアウトできない場合がある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5j以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | システムリカバリ | ディスクイメージ配信においてOfficeのMAK認証を実施する際、Officeのライセンスが必要以上に消費される場合がある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5j以前 【グレード】 上、特上 | なし | |
| | サーバインストーラ | 瞬快サーバ機能のインストール時に「データベースの構築に失敗しました」のメッセージが表示され、インストールに失敗する場合がある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5j以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | WindowsUpdate連携 | スケジュール作成時に、認証が必要なプロキシを設定した場合、設定内容によっては、当該スケジュールの編集の際にプロキシ設定の画面を開くと、瞬快コンソールが異常終了する。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5j以前 【グレード】 共通 | なし | |
| Ver.11.5m | Windows OS | サポートOS追加 | サーバ機能、システムリカバリサーバ機能およびコンソール機能のサポート対象として次のOSを追加しました。 ・Windows Server 2022 | 【版数】 Ver.11.5k以前 【グレード】 共通 | - | |
| | クライアント | 機能追加 | 瞬間復元機能の簡単設定において、Microsoft Edgeの「お気に入り」を修復対象外に設定できるようにしました。 | 【版数】 Ver.11.5k以前 【グレード】 共通 | - | |
| | クライアント | 機能追加 | 瞬間復元機能の簡単設定において、Wi-Fiの接続情報を修復対象外に設定できるようにしました。 | 【版数】 Ver.11.5k以前 【グレード】 共通 | - | |
| | 瞬間復元ドライバ | PCの稼働中、瞬快のプロパティ表示にて表示されるディスク使用量が、PC起動時の使用量のまま更新されない。 また、ディスクの空き容量が閾値を下回った場合もPC起動時のみ警告が表示される。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5k以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬間復元ドライバ | ファイルフォルダ単位の修復モードにて運用中、修復対象領域に存在する読み取り専用属性のファイル/フォルダに対し、delコマンドやrdコマンドによる削除指示を実行すると、本来のOS動作であればアクセス拒否のエラーが返されるが、これがアクセス拒否とならずに削除できてしまう。 ※PC再起動による瞬間復元では元に戻る。 | OS標準の動作と同じになるようプログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5k以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬間復元ドライバ | ファイルフォルダ単位の修復モードにて、Windowsにプログラムのインストールを行った場合、スタートメニューに登録されたプログラムのショートカット類が、ログインしなおさないと表示されない。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5k以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬間復元ドライバ | ファイルフォルダ単位の修復モードから修復無効モードへの切り替え指示を出した際に、その直後のPC起動からPC終了までの間、瞬快のログファイルである skfsd.log が1分に1MB以上のペースで肥大化する。 ※もう一度PCを再起動するとログは出なくなる。 ※Windows Search サービスが停止している場合は発生しない。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5b ～ Ver.11.5k 【グレード】 共通 | なし | ログのファイルサイズが大きくなった場合でも、次回修復モードに切り替えた際に古い行が削除され、10MB以下に縮小されます。 |
| | 瞬間復元ドライバ | 復元タイプをパーティションにした場合、クライアントPCのプロパティにてシステムドライブの使用量を表示する仕組みとなっているが、実際の使用量に変化があってもプロパティ表示が変わらない。 ※ファイルフォルダ単位の更新モードでも同様。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5d ～ Ver.11.5k 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬間復元ドライバ | Mastercam 2022 がライセンス認証されているPCにてファイルフォルダ単位の修復モードにすると、C:\Windows のフォルダが、0バイトのファイルに見える。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5k以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | 瞬間復元ドライバ | 起動ディスクの先頭パーティションの開始オフセットが32,255Byteより小さいPCにて、動作モードを修復モードに切り替えようとする、Ver.11.5j以前ではモード切り替えに失敗することがあり、場合によってはWindowsが起動しなくなる恐れがあるため、Ver.11.5kでは修復モードにできないよう制限がかけられている。 | 起動ディスクの先頭パーティションの開始オフセットが32,255Byteより小さいPCでも問題が発生しないよう仕様変更し、制限も解除しました。 | 【版数】 Ver.11.5k以前 【グレード】 共通 | なし | |

| 製品レベル | カテゴリ | 現象/内容 | 変更内容 | 影響範囲 | 従来製品での回避/対応方法 | 備考 |
|-------|------------|--|--------------------------------------|---------------------------------------|--|----|
| | クライアント | 瞬快クライアントがアラートを検知したとしても、クライアントPCに表示されたアラート通知への応答操作をしない限り、アラート情報が瞬快サーバへ通知されない。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5k以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | クライアント | ファイルフォルダ単位の修復モードの場合、2022年度版のAutodesk社の製品は、ライセンス認証が正常動作せず使用できない。 | 2022年度版Autodesk社製品のライセンス認証処理に対応しました。 | 【版数】 Ver.11.5k以前 【グレード】 共通 | なし | |
| | システムリカバリ | 瞬快コンソールにて「機器のプロパティ」のコメント欄に、半角のカンマ記号もしくは改行を入力すると、システムリカバリコンソールの起動に失敗する。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5k以前 【グレード】 上/特上 | 既存PCのプロパティを変更した場合は元に戻してください。 新規PC追加時にプロパティ入力した場合は当該PCを削除してください。 | |
| | システムリカバリ | USBリカバリのディスクイメージ取得画面にて2本目のディスクを選択した場合、選択したディスクの空き容量を表示する際の描画処理に問題があり、状況によっては潰れた文字が表示される。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5k以前 【グレード】 特上 | なし | |
| | ツール | サイレントインストール定義ファイル作成ツールの操作において、定義ファイルの新規作成時に「瞬間復元機能なし」を選択して操作を進めると、次のメッセージ表示にて定義ファイルの作成に失敗する。 「定義ファイルの作成中に例外が発生しました。詳細:指定されたキーはディレクトリ内に存在しませんでした。」 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5k以前 【グレード】 共通 | サイレントインストール定義ファイル作成ツールの起動時に、ラジオボタンで「既存の定義ファイルを編集する」を選択し、ToolフォルダにあるBzAgSinst.iniを選択してから作成を進めてください。 | |
| | リモート画面操作機能 | 「単一PC操作」をスタートメニューもしくは起動用コマンドから起動する場合、内部処理の問題により起動処理途中で停止することがあり、この状態になると通常の操作では終了することも起動しなおすこともできなくなる。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5k以前 【グレード】 共通 | 問題が発生した場合は、コンソール側のコンピュータを再起動してください。 | |
| | リモート画面操作機能 | 遠隔操作中にコンソール側にてCtrl+Alt+Delキーが押下されOSの処理が中断された場合、OSの処理が回復された後には、通常であればコンソールからCtrl+Alt+Delキーは使えない旨のメッセージが表示されるだけとなるが、コンソール側からのクライアントキー操作ができなくなるとともにクライアントPC側でのキー操作もできなくなる場合がある。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5k以前 【グレード】 共通 | 問題が発生した場合は、クライアントPC側にてCtrl+Altキーを押してください。 | |
| | リモート画面操作機能 | Windows8.1環境にコンソールをインストールした場合、遠隔操作中にコンソール側のWindowsOSのロックをすると、ロック解除後に遠隔操作を継続することができない。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5k以前 【グレード】 共通 | 問題が発生した場合は、リモート画面操作のプログラムを起動しなおしてください。 | |
| | リモート画面操作機能 | ファイル回収機能にて「回収したファイルの保存先」にUNCパスを指定すると、先頭文字の¥¥を除いたパスを指定したことになる。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5kのみ 【グレード】 共通 | ネットワークドライブの割り当てなどにより、UNCパスを使わないようにしてください。 | |
| | リモート画面操作機能 | コマンド実行の機能において、コマンド文字列の左端と右端の両方をダブルクォーテーションにした場合、次回コマンド実行時に過去履歴を見ると、左端と右端のダブルクォーテーションが削除されている。 ※左端と右端の片方だけをダブルクォーテーションにした場合は削除されない。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5kのみ 【グレード】 共通 | なし | |
| | リモート画面操作機能 | 瞬快クライアント機能をインストールしたWindows 8.1のPCをキオスクモードにて利用した場合、指定したアプリが起動された後に、一瞬だけ画面がデスクトップに切り替わるような挙動をする。 | プログラムを改修しました。 | 【版数】 Ver.11.5kのみ 【グレード】 共通 | なし | |